

令和元年度助成金実績報告書

令和2年3月25日

公立はこだて未来大学 大学院  
システム情報科学研究科 知能情報科学領域  
修士1年 西村南海

竹川教授からのすすめもあり、私は修士1年の夏季休暇を利用して、イギリスの Sussex 大学へ2ヶ月間留学しました。Sussex 大学は多くの研究機関や産業界と連携し、研究で高い評価を得ている大学です。特に国際開発の分野では国際的に高い評価を受けています。

ノーベル賞受賞者など優秀な教授陣による指導など、非常にレベルの高い大学です。英語力の乏しい私は、そんな大学で研究を行うことができるのだろうか、と不安ではじめは気乗りしませんでした。しかし、国際学会や就職活動など、グローバルな視野が将来求められてくる。今しか持っていない完成で、自分と異なる文化やバックグラウンドを持つ人々と交流し、知見を広げでみたいと思い、勇気を出して留学しました。また、自分の研究では、展示物の鑑賞方法を支援するものだったこともあり、世界有数の博物館や美術館が多数存在しているイギリスにも興味を持って留学しました。

海外に行ったことがない私は、海外に行くに当たり下調べを入念に行いました。イギリスでも使えるクレジットカードや交通機関の乗り方など、英語で書かれたウェブサイトも翻訳をしながら注意深く読みました。パスポートの取得など準備に時間がかかりそうなものから準備を行いました。英語に関する準備については、正直準備万端とは言えない状況でした。大学院入試の際に用いた TOEIC の教材を使いながら、日常会話程度こなせるように、と軽く準備をしていきました。しかし、ネイティブの発音は早く、全く聞き取ることができませんでした。「すみません、私は英語があまり得意では有りません」つたない英語でこう伝えると、優しい表現に言葉を変え、ゆっくり話してくれるなど、親切にしてくれたのが印象的です。

私は Sussex 大学の Sriram 先生の研究室で2ヶ月間ご指導いただきました。基本的には研究室で行われている研究のお手伝いを行っていました。お手伝いの研究が一段落したため、後半に自分の研究の実験をしました。私の研究は博物館展示などを、遠隔地にいる人と現地の人が、あたかも一緒に見ているように感じさせる（仮想同行体験）システムを作ることです。このシステムの名前をポケレポ Join といいます。今回の留学では、ほとんどが研究室のお手伝いを行っていたため、ポケレポ Join の改良に力をたくさん入れることができませんでした。日本とイギリス間でのプロトタイプ実運用実験や、タブレットとの比較実験などができました。また、イギリスでの実運用において、ポケレポ Join のハード面での改善点が多く見付き、今後の研究のマイルストーンに設定することができました。現在は、タブレットとの比較実験をもとに、主題分析により

従来手法の欠点を発見することができました。この結果も、今後の研究に活かせるよう努めていきたいと考えています。

今回の留学を通して、自分とは異なる国の人や、その文化を知ることができました。それらの経験は自分の国の良さを再確認させてくれる良い経験となりました。また、いろいろな人とコミュニケーションをとり、異国の地で研究を行い、アドバイスを貰ったことは、自分と自身の研究に対して大きな自信になりました。この、イギリスでの成功体験は自分の人生の大きな転機になったと感じています。

留学を終えて感じたこととして、英語力よりも、コミュニケーション能力が大切だと感じました。英語がわからなくても、身振りや表情で自分の状態を伝え、相手との理解を図る。そのためのコミュニケーション能力です。端的に言ってしまうと、英語が不得意でも海外留学は可能だと感じました。しかし、それはあくまでも最低ライン。現地の人とコミュニケーションをとり、有意義な時間を過ごすためには英語は必要不可欠だったと後悔しました。今回の留学を通して、海外の方たちともっと交流してみたいという気持ちが強くなりました。今後の学生生活などで、機会があれば積極的に交流していきたいと思います。

西村 南海